

「二上山を歩く」



小道は山の頂を目指し、人々が登る。古代から現代、登る姿は変わっていても、二上山への思いは同じ。

古代へと続く道

その昔から二上山へは多くの人が登りました。はるか遠い時代には「役の小角」が金剛山から移って修行をつんだ修行場として開かれたと伝えます。そして、神の山として畏敬され、ダケノボリなどの山岳登山の風習を生んだのでした。きっと古代から多くの人がこの山へと足を進めたと思うと、今、私たちが歩いているこの道が時間を越えた空間に続くように感じられるのです。

二上山へ登る道には幾つかのコースがあります。当麻寺から登る道、旧竹之内街道側から登る道、馬の背に至る道、そして畑春日神社の脇を通って尾根づたいに雄岳に登る道などです。香芝から雄岳に登る道は、格好のハイキングコースとして人気もあり、休日には多くの人々の姿が見られます。近鉄南大阪線の二上山駅から畑の集落を通っている道をうねうねと登って行くと、十一面観音や枝垂れ桜などで有名な専称寺の前を抜けて、畑春日神社の境内の下へ至ります。

この雄岳の道は、現在、バイパスを横切り、上ノ池の右手に池沿いに伸びています。きれいにならされた歩きやすい道で、道標などもしっかりと整備され、気分のいい道になっています。かさかさとした落ち葉が心地よい音を立てる道が続いています。

しかし、昔は池の左の溪流沿いに進む道だったのです。うっそうとした杉木立の中をほそほとした、踏み跡も定かではない山道が急な勾配で残っていました。入り口にあったという石の道標は、溪流の中に無残にも折れて半ば埋もれていました。それはこの道をたどる人が少なくなつて久しいことを思わせています。しばらくたどると道はもうそれとは分らないやぶの中へと消えていきました。